

現推進計画の区の自己評価

資料3

ハード

成果指標	現状値 (2017年度)	実績値 (2021年度)	目標値 (2023年度)
バリアフリー基本構想で設定した歩道の整備率	48.2%	55.5%	69.7%
バリアフリー基本構想で設定した特定事業の整備率	39.0%	58.0%	70.0%
区有施設等の合同点検実施件数 (2018年度からの累計値)	—	15件	12件

施策の方向	区の自己評価
利用しやすい安全で快適なみち・公園づくり	成果指標「バリアフリー基本構想で設定した歩道の整備率」が目標値まで8割程度の実績値となっているのは、道路補修工事や無電柱化などと併せて調整する必要があるためであり、今後、計画の円滑な進捗のため、さらなる検討を進めていく。
円滑に移動できる交通環境づくり	成果指標「バリアフリー基本構想で設定した特定事業の整備率」の計画はおおむね計画どおりに進んでいる。 今後も継続し円滑に移動できる交通環境づくりを進めていく。
利用しやすく配慮された区有施設づくり	成果指標「区有施設等の合同点検実施件数」は目標値を達成しており、利用しやすく配慮された区有施設のための整備や改修を進め、定期的な訪問による事後検証を行っている。 区有施設の整備時には今後もユニバーサルデザインの視点に配慮して設計などに反映していく。
利用しやすく配慮された民間施設・住宅づくり	区民及び事業者意識調査の結果から、障害者差別解消法及び中野区ユニバーサルデザイン推進条例などについて、よりわかりやすく区民等へ情報を伝える工夫をしていく。

現推進計画の区の自己評価

ソフト

成果指標	現状値 (2017 年度)	実績値 (2021 年度)	目標値 (2023 年度)
行政手続における電子申請の利用割合	60.2%	69.5%	68.0%
週 1 回以上活動を行っている通いの場の数	119 か所	167 か所	150 か所
商店街・地域の多言語化・ユニバーサルデザイン化支援数 (2018 年度からの累計値)	2 事業	8 事業	17 事業
ユニバーサルデザイン関連創業等支援セミナー参加者数 (2019 年度からの累計値)	—	219 人	480 人
情報発信のユニバーサルデザインガイドラインに基づく見直し・改善数	—	393 件	200 件

施策の方向	区の自己評価
利用しやすくわかりやすい区のサービスづくり	来庁しなくても受けられる行政手続の充実に向けて取り組んできており、成果指標「行政手続における電子申請の利用割合」は目標値を達成している。電子申請のみならず、区が提供する各種サービス・事業について、全ての人が円滑に利用できるサービスとなるよう見直し・改善を随時行っていく。
地域で気軽に楽しく学べる場づくり	高齢者や障害者をはじめ、すべての人が居場所を持ち、活躍できる環境づくりに取り組んでおり、成果指標「週 1 回以上活動を行っている通いの場の数」の目標値も達成し、一定の効果が得られていると考えている。今後はさらに、幅広い区民が参加できるよう、ICT 技術の活用などを図っていく。
地域における利用しやすいサービス・商品づくり	地域における実際の事業化には課題も多く、現段階では目標の実現は厳しいところである。ユニバーサルデザイン化や障害者差別解消法への対応に関する情報をわかりやすく届ける工夫を継続していく。
わかりやすい情報を簡単に得られる環境づくり	広報クリニック実施数やホームページの改善数の成果指標「情報発信のユニバーサルデザインガイドラインに基づく見直し・改善数」は目標値を達成している。区政情報の発信、地域のユニバーサルデザイン情報の発信、ユニバーサルデザインに配慮した広報物の作成も一定程度職員に浸透していると考え。区公式ホームページはリニューアルする予定であり、引き続きユニバーサルデザインへの配慮を進めていく。

現推進計画の区の自己評価

ハート

成果指標	現状値 (2017年度)	実績値 (2021年度)	目標値 (2023年度)
学校は思いやりや優しい心を育てていると回答している保護者の割合	小：81.5% 中：75.6%	小：79.2% 中：75.2%	小：85.0% 中：80.0%
職員のユニバーサルデザイン研修（人権セミナー研修を含む）延べ受講者数（2018年度からの累計値）	154人	1,060人	1,515人
ユニバーサルデザインサポーターの延べ養成人数（2019年度からの累計値）	—	85人	100人
ユニバーサルデザインの理解促進事業の延べ参加者数（2017年度からの累計値）	72人	229人	572人
区民公益活動に関する政策助成による助成団体数（2019年度からの累計値）	—	30団体	12団体

施策の方向	区の自己評価
違いを超えて尊重しあう心をはぐくむ教育環境づくり	<p>教員への研修を実施し、教育課程に基づき授業等も実施しているところである。</p> <p>成果指標は、保護者の評価によるが、様々な要因に基づいており、学校での対応が直接実績に影響しているのかは判断しにくいところである。ユニバーサルデザインの考え方や東京レガシー2020が児童・生徒に理解されているかなどの指標についても検討していきたい。</p>
ユニバーサルデザイン推進の担い手づくり	<p>成果指標「職員のユニバーサルデザイン研修延べ受講者数」「ユニバーサルデザインサポーターの延べ養成人数」とともに、順調に実施していると考えている。ユニバーサルデザインサポーター養成事業は、継続するとともに、認定の活用場となる情報の提供などを検討していく。</p>
ユニバーサルデザインの考え方を広げるしくみづくり	<p>成果指標「ユニバーサルデザインの理解促進事業の延べ参加者数」が目標値まで4割程度の実績値である。これは新型コロナウイルス感染症や参加者数の把握が困難な事業実施の影響であると考えている。また、指標「区民公益活動に関する政策助成団体数」は目標値を達成しており、今後も区民団体等への支援を継続していく。指標の設定方法について、事業数も指標とするなどにより、周知効果の実態をより反映できる方法を検討したい。</p>
個性や多様性を大切にす意識づくり	<p>人権擁護・男女共同参画推進、国際理解・国際化推進、障害者差別解消の普及啓発、性的少数者に対する理解促進の内容の充実を図り、継続していく。</p>